

新聞に親しみ 新聞で学ぶ

指定校 2 年次 上松町立上松小学校

仁城 崇晴 中村 純也 濱 敦
大川 雅也 小林 早百合 伴 優美

1 本校の新聞活用（N I E）の現状

（1）N I E 指定校 1 年次 ～新聞に興味をもち親しむ～

1 年次の昨年度は、新聞に親しむ環境作りから始めた。中央廊下に「新聞コーナー」を設け、全校が新聞に親しめるように 7 紙を置いた。また、4, 5 年生では新聞スクラップにも取り組み、日常的に新聞を身近に感じられるような活動も行った。主に高学年での実践だったが、6 年生では「選挙」を通して政治について考えた。5 年生では、自分の興味のある記事から感じたことを伝える（表現する）授業を行い、4 年生では長野県の市町村について新聞記事から学習する授業を試みた。いずれの授業も教科学習に新聞を活用する価値を見い出すことができ、今後の参考になる有意義な時間となった。

（2）N I E 指定校 2 年次 ～新聞を活用した授業作り～

指定校 2 年次を迎えた今年度は、低学年でも新聞を活用した授業作りに挑戦した。高学年は昨年度の実践を踏まえ、「新聞に親しむ」から「新聞で学ぶ」ことを意識して授業作りを行った。（詳細は後述）

2 研究の概要

（1）実践のねらい（育てたい力）

低学年…新聞で文字探しや新聞を使った遊び、工作をすることを通して、新聞に興味をもつ。

中学年…新聞記事や見出し、写真等から感じたことを交流したり、行事を新聞にまとめたりする活動を通して、新聞に興味をもち、伝える力を育てる。

高学年…新聞記事のスクラップや記事の要約、感想の交流を通して、書く力、読む力、伝える力を育てる。

（2）実践授業

① たんぽぽ学級（1 年） 「国語」 ～しんぶんから ならった かん字を みつけよう～

【主眼】

1 年生のすべての漢字を学習した子どもたちが、新聞から学習した漢字を見つける場面で、学習した漢字を見つけ、書き出す活動を通して、漢字や新聞に慣れ親しむことができる

【成果と課題】

・新聞を活用した学習を設定したことで、学習した漢字に興味関心をもって活動に取り組むことができた。また、新聞にも興味をもち始める姿もみられた。

- ・御嶽海の記事を大きく打ち直したプリントを使ったことで、抵抗感なく記事を読むことができた。
- ・個別の課題の内容や達成感を設定するだけでなく、個によって支援の仕方を研究していく必要がある。



② あおぞら学級（2年） 「国語“二字熟語”」～カンジーはかせの大はつめい～

【主眼】

「花」と「火」を合体して「花火」になるなど、二字熟語について知った子どもたちが、新聞から熟語を探す活動を通して、二字熟語の他にも三字熟語、四字熟語などが新聞に使われていることに気づく。

【成果と課題】

- ・子どもの意欲を高める題材の出し方

前時、OR児は「子ども新聞」から熟語を探すことに熱中した。新聞から熟語を探すということに喜びを感じたことで、本時も意欲的に取り組むことができた。これを機に新聞を読むことに興味をもち、音読する姿も見られた。（普段は音読を苦手としている）



③ 6年生「国語」～自分の思いを発信しよう～

【主眼】

新聞スクラップや昨年の「自分の思いを伝えよう」で新聞に親しんできた子どもたちが、同世代が書いた投稿を読むことを通して、自分の伝えたいことを考え、発信してみようという意識をもつことができる。

【成果と課題】

- ・4人分の同世代の投稿を提示したが、投稿を読むスピードが速く、新聞スクラップで慣れ親しんできた成果を感じた。
- ・投稿の題材を「中学への希望」「小学校との違い」「部活動」「体験学習」を選んだことで、より身近に感じながら読むことができた。
- ・「発信したい」という動機付けが弱かった。推敲を重ねながら、読者にわかりやすい文章を書く意識も増してきたが、導入部分でもう少し意識を高めたかった。

修学旅行で森の役割学ぶ

**10代
から**

ぼくは、4年生のころから楽しみにしていた修学旅行で東京に行った。東京に向かうバスの中で気づいたことは、建物の量と山の数の違いだ。長野県には高いビルがあまりないが、東京は周りを見ても高いビルばかりだった。しかし、山は長野県にはたくさんあったが、東京にはほとんどなかった。

東京には木も少なかった。木があったとしても、人工的に植えられたものがほとんどで、自然に生えてきた木は少なかった。だから少し空気がよごれている感じがしたし、ホテルで飲んだ水もあまりおいしくなかった。

長野県に戻ってくるにつれて、今度は高いビルが少なくなってきて山が多くなってきた。途中のサービスエリアでは、明らかに東京よりも空気と水がきれいになっている感じがして、小学校に帰ってくると空気と水がすごくおいしかった。

今回の修学旅行で、森が水をろ過しておいしくすることと、森の木が空気をきれいにしていることを学んだ。

木曾郡 杉本 龍哉（小学生・12）

④ 5年生（N I E公開授業）

授業日 平成30年11月8日（木） 4校時

授業学級 5年 男子15名（1名） 女子14名（2名） 計29名

教科・単元名 社会科「情報化した社会とわたしたちの生活」

単元展開（全10時間）

時数	目標	活動内容
1	わたしたちはどのような情報に囲まれているのか考えよう	自分たちのまわりには、多様な情報があることに気づき、情報に対する関心を高める。
2	放送局では東日本大震災をどのようにして伝えたのか考えよう	大震災発生時の放送局の放送を通して、情報を提供している産業と国民生活の様子に関心をもつ。
3	放送局ではどのように番組づくりをしているのか調べていくための学習問題をつくろう	放送などのマスメディアを通して情報を提供している産業と国民生活とのかかわりについて学習問題や予想、学習計画を考え表現する。
4	ニュース番組の作り方を調べよう	ニュース番組がどのようにつくられているのかを調べ、短い時間で正確にわかりやすく伝える工夫や緊急時に現地から早く正確に情報を伝える工夫をしていることを資料から読み取る。
5	テレビ番組はどのようにして決められているのか調べよう	テレビの番組にはどのような種類があるかを新聞のテレビ欄で調べ、放送局ではテレビの番組を視聴者が見る時間帯に合わせて編成していることがわかる。
6	テレビの情報の生かし方について考えよう	情報産業は生活に大きな影響をおよぼしていることや、情報化の進展にともなって放送局の発信者としての責任と受け入れる側の正しい判断が一層求められていることを考え、適切に表現する。
7・8	御嶽山入山規制解除を新聞はどのように伝えているのか調べよう	自分が担当する新聞の見出し、リード文に注目して調べる。
9	新聞の違いによる情報の違いを共有しよう（本時）	自分が調べた内容について班で共有し、新聞社による情報の違いを学ぶ。
10	これまでの学習を振り返り、放送局の役割や情報の生かし方についてまとめよう	これまでの学習内容を整理し、改めて自分を取り巻く情報の生かし方について考える。

本時案

（１）主眼

御嶽山入山規制解除についての新聞社による報道の違いに目を向け、自分が調べたい新聞社の見出しやリード文についてまとめた子どもたちが、お互いに調べた内容を共有し、同じ出来事に関する記事でも新聞社による違いがあることに気づくことができる。

（２）本時の位置

前時：御嶽山入山規制解除に関する記事が載った4種類の新聞から、自分が調べたい新聞を選び、見出し、リード文に着目して調べ学習をする。

次時：今までの学習を振り返り、放送局の役割や情報の生かし方についてまとめる。

(3) 展開

学習活動	子どもの反応	支援・評価
1 自分たちが調べた内容について振り返り、本時の活動の確認をする。	・ 前は信濃毎日新聞の御嶽山入山規制解除の記事を調べた。 ・ 毎日新聞には息子さんが犠牲になったご夫婦のことについて書いてあったけど、他の新聞にはどんなことが書いてあるんだろう。 ・ 今日は班でそれぞれが調べた内容を発表するんだ。	・ それぞれの新聞について調べてきたことを振り返り、本時の課題を確認する。(5分)
学習問題：御嶽山入山規制解除についての新聞報道では、新聞社によって見出しやリード文にどのような違いがあるのだろうか。		
学習課題：班の中で自分が調べた新聞の見出しやリード文について発表し、自分が調べなかった新聞社の内容と比較して、その違いを見つけよう。		
2 班の中で自分が調べた新聞の見出しやリード文について発表し、他の人の発表も聞いて、その違いを見つける。	・ 私は信濃毎日新聞を調べました。見出しは「御嶽 祈り満ちる山頂」で、リード文には、入山規制が解除された日付と噴火当時の犠牲者や行方不明者のこと、この日に山頂を目指した人たちについて書いてありました。 ・ 僕は中日新聞を調べました。見出しは信濃毎日新聞と少し違い、「あの日 ここにあなたが」でした。 ・ 毎日新聞には遺族の会「山びこの会」について書いてあった。行方不明者の1人、19歳の野村亮太さんのご両親がこの日登頂したことが書いてありました。 ・ 家でとっている市民タイムスの見出しには、「お山」という言葉が書いてありました。お山というのは御嶽教の信者さんたちや地元の方が御嶽山のことをこう呼ぶそうです。	・ 班で司会者を決め、1人ずつ発表していく。 ・ 発表を聞きながら、学習カードに違いについて分かったことを記入していく。 ・ 1人の発表が終わったら短時間質問タイムをとり、疑問点を明らかにする。(15分)
3 紙面構成の違いを見つけたり、自分が調べた新聞の記事内容で気になったことについて発表したりする。	・ 信濃毎日新聞は一番文章量が多い。 ・ 写真が2枚あるのは信濃毎日新聞と毎日新聞だ。 ・ 入山規制が解除された場所が分かる図を見ると、中日新聞が分かりやすいと思う。市民タイムスは図がない。 ・ 私が気になったのは、市民タイムスの「活火山なので絶対に安全とはいえない」という部分です。御嶽山に登りたいけど、活火山であることを忘れないようにしたいと思った。	・ 紙面構成について(文章量、写真、図など)、分かったことを発表し合う。 ・ 紙面構成について発表し終えたら、自分が気になった記事内容について発表する。

	・ぼくは信濃毎日新聞の「山頂部に長く滞在しないように」というパトロール隊員の言葉が印象に残りました。入山規制が解除になっても、まだ危険な火山ガスが出ているということらしいです。 ・毎日新聞の遺族の方の言葉が読んでいて悲しかった。「亮太を連れて帰りたいかったけど、まだ近くに行くことしかできない」という文です。行方不明者の遺族の悲しみはまだまだ続くのではないかな。	・活動の終わりは学習カードへのまとめの時間とする。 (15分)
4 学習カードにまとめたことを全体で発表し合う。	・信濃毎日新聞と中日新聞の見出しにはこんな違いがありました。中日新聞の見出しの方が話す言葉のように書いてあり印象深いです。 ・毎日新聞のリード文には犠牲者の実名もあり、遺族がこの日登頂したことも書かれていました。 ・市民タイムスのリード文には「お山」という言葉があった。信者さんや地元の人たちに親しみがある言葉や内容で書かれているのではないかな。 ・信濃毎日新聞の記事が一番大きかった。 ・現在の御嶽山の登山道の様子がよく分かる図もあったが、中日新聞の図が一番分かりやすいと思った。 ・新聞社によって、内容にこんなにも違いがあるなんて驚いた。 ・読み手がどの地域の人が多いのか、全国紙なのか地元紙なのかでも大きな違いがあるのではないかな。	・班での活動で気づいたことを発表し合う。 ・感想もあれば発言させたい。 (10分) 班での活動を通して、同じ出来事に関する記事でも新聞社による違いがあることに気づくことができたか。

(4) 成果と課題

【NIEの方からのご指導】

○見出しの役割は、読者に伝えたいことを端的にまとめてあるということ。リード文は5W1Hを基本として盛り込んである。新聞社による記事の違いはなぜあるのか。そのへんにも踏み込んで学習してもよいかもしれない。

○テーマと題材の絞り込みを行い、自分自身の考えをはっきりさせる。5年生の活動としてはすばらしかった。マスメディアの長所と短所が選択のヒントになる。この活動を通じて、子どもたちに御嶽山がより身近になった。

○学級全体の雰囲気がよく、気持ちの交流もある。自分たちで、どんどん授業が進められていた。学習問題の解決も、お互いの新聞記事を発表する、読み合う、読み比べることで解決していった。違いに気づく喜び、発見の喜びを、今後どう生かすのか考えたい。



【まとめ（授業者の感想を含む）】

今回、N I E 教育にかかわらせて研究授業の授業者をさせていただき、大変勉強になった。新聞を見比べるという活動は、観点がややはっきりとしておらず、子どもによっては少し難しい活動となってしまった。授業の評価としては、新聞を見比べることで、同じ内容の記事でも違いがあることに気づいている子どもが多かったので、主眼は達成できていたように思う。また、本校の研究テーマである「自ら課題をもって学び、仲間とかかわりあって追究する子ども」から見ても、今回の授業ではかかわり合い、そして追究する場面が多く見られた。かかわり合うことで、自分一人では気づけない内容や事柄にも気づいたり、知ったりすることもできていた。かかわるという活動を学び、その中で他者から学ぶということ。これはまさに学校教育のメリットに他ならない。新聞や本などからの活字離れが言われている昨今だが、新聞を使うことで学習意欲が増し、自分たちに身近な内容の記事であれば、子どもたちの学習意欲も増す。新聞を授業に取り入れることで、子どもたちが学ぶものは大きいと感じたので、今後も、新聞という教材を積極的に取り入れていきたいと思っている。

